

10 日間の
特別祈禱

【祝いの安息日】より深い経験



【今日のテーマ聖句】

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることです」(ヨハネ 17:3)

2019年1月19日(土)

最後の安息日の提案

最後の安息日は、「10日間の特別祈禱」を通して、神様があなたとあなたの教会にしてくださったすべてのことを喜び祝う大切なときです。

神様の恵みと大きな力を記念するために、この日を計画しましょう。

過去10日間、豊かな聖霊の注ぎをどのように体験したか考えてみましょう。この安息日は、主がなにをしてくださったか、なにをしておられるか、そしてこれからなにをしてくださるかを喜び祝う機会です。

会衆の必要はそれぞれです。ですから、各教会のリーダーと相談してあなたの教会だけの計画を作りあげましょう。

以下に、最後の安息日礼拝に盛りこむためのいくつかの例を挙げます。

証し

答えられた祈りを証しするのに十分な時間を盛り込みましょう。「10日間の特別祈禱」の参加者には、会衆と分かち合うことのできる事柄が多くあるはずですが、ただし、全員が証しできるように簡潔なものにしてもらいましょう。他にも証しがあるかもしれません。何人かにはあらかじめ証しを用意してもらい、それに加えて自由な証しの時間を持つと良いでしょう。

祈りの時間

教会員全員を合同祈禱会に招きましょう。過去10日できてきたように、対話の祈りを通して会衆をリードするのも良いでしょう。特定のテーマをいっしょに祈ることもできます。これは小グループか、全員がいっしょに祈る場合に可能です。別の選択肢としては、礼拝中にいくつか別の方法の祈ることです。聖句で祈る、小グループで、個人で、会衆で、黙禱など。

柔軟性

礼拝中、聖霊の導きに従うことができるように、計画には柔軟性を持たせましょう。

賛美

この日は神様がしてくださったすべてのことを喜び祝う日です。音楽は祝うためのとても良い方法です。もし特定の曲がテーマソングになっている場合は、全会衆で歌うようにしましょう。

今後の計画

もし10日間の特別祈禱を通して、特別の伝道や奉仕をするように神様が導かれたのであれば、教会員にその計画を知らせ、彼らも加わるように招きましょう（計画の例は、本書3ページの「リーダーの手引き」に記載されています）。

子ども／青年

子どものお話では、祈りについて話すのが最適です。また、祈りの集いに、子どもや青年が参加していれば、証ししてもらるか祈りの時間をリードさせましょう。